

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：中国地方整備局都市・住宅整備課

担当課長名：山口 陽

事業名	都市計画道路 <small>やがおおず</small> 矢賀大州線外1	事業区分	街路事業	事業主体	広島市			
起終点	自：広島市 <small>ひがし やがしんまち</small> 東区矢賀新町五丁目 至：広島市 <small>みなみ おおず</small> 南区大州五丁目	延長	1.00km					
事業概要	<p>都市計画道路・矢賀大州線外1路線は、広島市のデルタ市街地周辺の東部地区において、JR山陽本線で分断されている東区矢賀地区と南区大州地区を鉄道との立体交差施設（アンダーボックス）を介して連絡し、デルタ市街地周辺の東部地区における道路ネットワークの強化や沿道の良好な市街地形成を図る幹線道路であり、かつ、広島都市圏の自動車専用道路ネットワークを形成する広島高速2号線の導入空間として機能する平面街路である。</p> <p>本市では、道路ネットワークの強化や高速2号線の導入空間の確保等のため当該路線の整備を推進しているものである。</p>							
H8年度事業化	矢賀大州線 S26年度都市計画決定 (H6年度最終変更) 天満矢賀線 H6年度都市計画決定 (H12年度最終変更)	H9年度用地着手	H15年度工事着手					
全体事業費	144 億円	事業進捗率	56%	供用済延長	0.00km			
計画交通量	10,200台/日（矢賀大州線）～39,700（天満矢賀線）（H42）							
費用対効果分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">B/C</td> <td style="width: 10%;">(事業全体) 2.0</td> <td style="width: 10%;">(残事業) 4.2</td> </tr> </table>	B/C	(事業全体) 2.0	(残事業) 4.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 49.9/107.0 億円 事業費 : 49.6/106.7億円 維持管理費 : 0.3/0.3億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 210.6/210.6 億円 走行時間短縮便益 : 197.5/197.5億円 走行費用減少便益 : 9.6/9.6 億円 交通事故減少便益 : 3.5/3.5 億円	基準年 : 平成17年	
B/C	(事業全体) 2.0	(残事業) 4.2						
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.3（交通量+10%） B/C=4.2（交通量-10%） 事業費変動：B/C=3.8（事業費+10%） B/C=4.7（事業費-10%）							
事業の効果等	円滑なモビリティの確保（路線バスが天満矢賀線に運行されておりバスの利便性が向上） 個性ある地域の形成（JR山陽本線による矢賀地区と大州地区の地域分断解消） 安全な生活環境の確保（JR山陽本線天神川駅周辺地区において車椅子やベビーカー等の安全な通行を確保） 災害への備え（広域避難路の整備促進） 他のプロジェクトとの関係（広島高速2号線の導入空間となる平面街路を整備） 他4項目に該当							
関係する地方公共団体等の意見	（特筆する事項なし）							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	（特筆する事項なし）							
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地買収計画件数75件のうち67件が完了（平成16年度末）し、今後も広島都市高速2号線の整備と歩調を合わせ、残りの用地買収、JR山陽本線下のアンダーボックスなどの工事を進めていく。							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	何人かの地権者による事業への反対があったことや事業協力者においても高額補償要求への対応などにより、用地交渉に日時を要したとともに、大規模な上下水道施設の移設補償工事に日時を要したり、関連する広島高速2号線の整備時期が遅れたことにより、事業進捗が遅れが生じている。							
施設の構造や工法の変更等	（特筆する事項なし）							
対応方針	事業継続							
対応方針決定の理由	以上の理由を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。							
事業概要図								

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものである。